平成31年度 佐賀県立武雄青陵中学校 学校評価計画

1 学校教育目標 2 本年度の重点目標 高い志と未来を切り拓く力持ち、地域や国際社会の発展に貢献 高い志を育てながら、自ら学びに向かう姿勢を持つ生徒を育成する。 ・ 学力向上と進路支援 できる、人間性豊かな人材を育成する。 生徒指導の充実 中高交流の促進保護者・地域との連携 ・ 組織力の向上、迅速・誠実・的確な問題解決、時間外労働時間の縮減

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価									
① 学力向上									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策					
学運校営	●学力向上	·指導計画 ·評価計画	・主体的、対話的で深い学びに至る授業 を展開するための計画を策定する。	・指導と評価の一体化が図れる指導計画及び評価計画 を実現性を十分に考慮して策定する。					
		·学習環境	・個に応じた指導ができる環境をつくる。	・TTや小人数指導を適宜採り入れるなど、学力差が広がらない工夫を講じる。					
		·授業改善	・多様化する生徒に対し、自ら考え取り組む、主体的な学習が身につくよう、全教科を通じて指導を行う。 ・「基礎学力」とともに「学び方の基礎基本」を徹底的に習得させる。	・「めあて」を明示する。 ・授業を振り返る場面を設定する。 ・個別演習、グループワーク、『学び合い』、アクティブラーニングなどの多様な展開を活用する。 ・思考力・判断力・表現力を育む発問や課題を採り入れる。					
		・授業外の指導改善	・多様化する生徒に対し、自ら考え取り 組む、主体的な学習が身につく指導を行 う。	・能力に応じて学力向上が図れるような補習授業を実施する。					
		•家庭学習	・家庭学習が充実するよう指導を行う。 ・家庭学習を始める時間(三点固定)を習 慣化できるように継続的な指導を行う。	・授業と関連付けた課題を与える。 ・宿題の意味ややり方を具体的に指導し、次の学びに つながることを理解させる。 ・課題の質と量について、教科間での調整を行う。					
		•学習評価	・適正な評価の実施として、観点別評価 の積み上げによる総合評価を確立する。	・評価計画を生徒及び保護者に配布し、学習評価について理解を深めてもらう。・評価結果について説明責任が果たせるよう、適宜評価方法や評価時期の検証を行う。					
② 進	② 進路支援の充実								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策					
教育	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力 する気持ちを高める教育活動の推進		・教科横断的な授業や体験活動的な学習内容を取り入れた授業改善を行う。 ・「目標⇒実践⇒検証」のスモールステップで成功体験 を積み上げさせる。					
	〇キャリア教育	•探究活動	・将来にわたる自己の在り方・生き方に ついて考え、主体的に進路を決める姿勢 を培う。	・調べ学習やディスカッションを採り入れるなど、「探究」の時間を充実させる。 ・教科横断的・総合的な視点を持って活動を行う。					
		•体験活動	・職業観、勤労観が身につく、又は身に付けようと努力する。 ・高校進学後、文理選択や進路目標の設定を主体的に行えるようにする。	・外部講師を活用した職業講話、職場体験、職場見学、 また職業調べ等を実施し、仕事や働く意味について考 える契機とする。					
③ 生徒指導の充実									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策					
教育動	●心の教育	・読書活動の推進	・豊かな心と高い志を育成するため、良 質な本に数多く触れる機会を作る。	・学級内での広報活動を充実させる。 ・校内放送による新刊案内、図書館だよりの学級掲示を 行う。					
		礼儀作法とマナー	・本校生としての誇りを持ち、正しく行動 できるための社会的常識、判断力を養 う。	・登校指導をはじめ日常的に挨拶指導や言葉遣いの指導行う。 ・学校生活のあらゆる場面を通して、社会的常識や正しい判断力ができるよう考え、行動させる。					

	●いじめの問題への 対応	・自他の存在を尊重する生徒の育成	・相手のことを考え、正しい判断や行動ができるようにする。 ・いじめの予防、早期発見、早期解決に 努める。	・いじめをしない、させない学校づくりを目指した生徒会活動や学級活動に取り組む。 ・面談や生活アンケートを活用し、生徒の実態把握に努めるとともに、いじめの芽を早期に発見する。 ・いじめ・体罰等対策委員会において、事案発生時の対応について共通理解を図り、また教職員全体でも共通理解を図る。				
④ 保健・安全指導の充実								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策				
教育活動	●健康・体つくり	・望ましい生活習慣の形成	・3点(起床、学習開始、就寝)固定を定 着させる。 ・朝食摂取率を95%以上にする。	・SDノート等を用いて生徒の生活実態を把握し、教育相談などを利用して適切に指導・助言を行う。 ・朝食の摂取状況について調査し、食育だよりや保健だより等で朝食の大切さについて呼びかけるとともに、保護者への協力を依頼する。				
		•自己管理	・健康に対する意識を高め、健康の保 持・増進に努める。	・生徒会保健委員会活動と協同し、自己健康管理を促す取り組みを行なう。 ・健康増進を図るため、健康診断の結果をもとに個人指導に努める。 ・「保健だより」発行などを通して、身近な保健情報を提供する。				
⑤ 業務改善を図るとともに、情報発信、地域との連携に努め、開かれた学校づくりを推進する。								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策				
学運営	●業務改善·教職員 の働き方改革の推進	・校務等の効率化の推進	・学習指導をはじめとした学校行事全体の運営について改善と工夫を重ねながら、効率的、効果的な学習指導、生徒指導、部活指導に努め、教職員の時間外労働時間については、所属年間平均時間を45時間未満にする。・学校行事の開催にあたり、昨年度より10%の改善を目指す。	・学校教育活動をより効果的にかつ継続可能な形で行うために、個人ではなく組織的に各指導にあたる。 ・部活動指導においては、本校の「部活動の在り方に関する基本方針」に則りその履行に努めることで、教職員の負担軽減につなげる。 ・年次有給休暇、振替休日等の取得を推奨する。				
	〇保護者・地域との連 係	•情報発信	・学校だよりやホームページ等により学校の活動について積極的に広報活動を行い、学校への理解を得るよう努める。	・学級通信や「青陵だより」の発行をとおして、地域や関係小学校へ情報発信の拡充に努める。 ・ホームページの更新をこまめに行い、外部の方々への青陵中学校に対するよりよい理解を促進し、たくさんの魅力が伝わるようにする。				
		・開かれた学校づくり	・学校行事や公開授業などに1回でも参加した保護者の数を80%以上にし、学校理解を深化させる。 ・地域に信頼される学校づくりを行う。	・保護者が参加可能な学校行事の案内を行い、PTA役員との協力により保護者への参加を促す。 ・地域や地元自治体のイベントに参加し、また地域への奉仕活動を実践する。				
本年度	本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策				
教育活動	〇グローバル化	•国際交流	・積極的に国際交流に取り組み、異文化理解、自国文化理解に努める。 ・英語によるコミュニケーション能力が向上する。(英検2級・準2級を合わせて70名以上、3級を100名以上にする)	・「探究」の時間を活用し、国際交流の機会を設ける。 ・海外の学校との交流活動を県との協力で充実させる。 ・様々な国際交流事業を紹介し、積極的な参加を促す。				

[●]は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目